

令和元年度第 1 回
東京都現代美術館美術資料収蔵委員会
評価部会

令和元年 7 月 30 日（火）

東京都現代美術館

午後 1 時55分開会

矢中文化施設担当課長代理：御出席予定の委員の皆様が既におそろいでございますので、ちょっと時間にはまだ早いのですが、始めさせていただきたいと思います。

本日は、お忙しい中、御出席いただきましてありがとうございます。

ただいまから「令和元年度第 1 回東京都現代美術館美術資料収蔵委員会評価部会」を開催いたします。

私は、東京都生活文化局で文化施設担当の課長代理をしております矢中と申します。課長が他の業務で出席できませんので、私が代わりに本日の司会を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

まず、本日御出席いただきました委員の皆様の御紹介をさせていただきます。

私から向かって左手前の石井委員から御紹介をさせていただきます。

石井孝之委員でございます。

蔵屋美香委員でございます。

小山登美夫委員でございます。

佐谷周吾委員でございます。

長門佐季委員でございます。

前山裕司委員でございます。

南雄介委員でございます。

続きまして、事務局職員のほうを御紹介いたします。

東京都現代美術館副館長の松下でございます。

松下副館長：本日は大変お忙しいところ、お暑い中、どうもありがとうございます。副館長の松下でございます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

矢中文化施設担当課長代理：同じく事業企画課長の加藤でございます。

現代美術館事業係長の丹羽でございます。

どうぞよろしくお願いいたします。

では、お手元の資料の御確認をお願いいたします。

まず、会議次第がございます。次に、資料 1 から資料 5 までの資料及び評価表がお手元にあるかと思っておりますので、御確認をお願いしたいと思います。

資料 1 が東京都現代美術館美術資料収集方針でございます。

資料 2 が令和元年度第 1 回東京都現代美術館資料収集候補作品の一覧表でございます。

資料 3 が作家・作品説明書でございます。

資料 4 が設置要綱でございます。

資料 5 が委員の皆様の名簿となっております。

このほかに、評価部会の評価表を 1 枚お配りしているかと思っておりますので、お手元に資料がない方がいらっしゃいましたら、よろしいでしょうか。

配付いたしました資料につきましては、委員会終了後、後ほど回収させていただきます

ので、よろしくお願いいたします。

評価対象資料の価格評価に関する議事につきましては、「東京都現代美術館美術資料収蔵委員会設置要綱」第11により非公開となっております。

部会の議事録につきましては、11の第2項の定めに従いまして、美術資料が収集決定した後、公開を予定しております。公開に当たりまして、委員の皆様には、個人情報など公開に差しさわりのある内容がないか、追って確認させていただきたく存じます。よろしくお願いいたします。

それでは、早速議事に入ります。

本日、審議いたします収集作品の説明をお願いいたします。

松下副館長：それでは、収集作品についての御説明でございますが、本日、審議をお願いする作品は、購入が1点、寄贈が1件でございます。

これら作品の収集につきましては、午前中に開催されましたコレクション部会のほうで御承認をいただいております。作品の詳細につきましては、事業企画課長の加藤と事業係長の丹羽及び担当の学芸員から御説明を申し上げます。

では、よろしくお願いいたします。

加藤事業企画課長：では、御説明させていただきます。

この御説明に先立ちまして、美術資料収集方針の4点につきまして御説明をさせていただきます。資料の1をごらんください。

東京都現代美術館資料収集方針といたしまして、まず「1 方針策定の趣旨」といたしまして「21世紀の美術文化を担う東京都現代美術館の美術資料の収集に当たって、その方針を定め、首都東京、国際都市東京の美術館にふさわしい美術資料の収集を図り、常設展示の一層の充実を目指す」ということでございます。

「2 収集の基本的考え方」として、東京都現代美術館は、内外の現代美術を中心に次の視点から資料収集するということで、(1)から(5)までを定めております。

そして「3 収集方針」といたしまして「(1) 収集対象」としましては、まず、アとして「日本の現代美術の作品及びそれらを明確にとらえるために必要な、友好都市を始めとする現代の欧米、アジア等の作品」。イといたしまして「現代美術の形成を考える上で必要な近代日本及び海外の作品」としております。

「(2) 収集分野」としましては、アからクまでを定めて、基本的には総合的な収集を目指すものでございます。

「4 収集方法」といたしまして、購入及び寄贈、寄託等によるものとし、収集に当たっては、この収蔵委員会の意見を聞くものとするとして定めてございます。

こちらの収集方針につきましては、お手元にお配りをいたしました個別の作家・作品説明書の該当する規定に、このどれに当てはまるかというものを記載してございますので、合わせてごらんいただければと思います。

よろしゅうございますでしょうか。

それでは、作品につきましての説明をさせていただきます。今回は購入、寄贈、それぞれ1点ずつ、2点が対象となっております。

まず、1点目ですが、彦坂尚嘉による《フロア・イベント No.1》でございます。

こちらは、ゼラチン・シルバー・プリントの写真作品で、エディションは10分の1、そしてアーティスト・プルーフが2というものでございます。これは《フロア・イベント》という彦坂が1970年に自宅で行ったパフォーマンスで、床に白いラテックスをまくというものを、時間を追って順次記録をとったものでございます。

そして、そのパフォーマンス後も10日間にわたりラテックスが乾いて乳白色から透明になっていくプロセスを今度は彦坂自身が撮影したものになります。

この記録写真につきましては、第一次美共闘Revolution委員会による展覧会で展示することは想定しておりましたが、実際にはパフォーマンスの再演となったため、写真の展示は行われておりませんでした。この1970年の初演時に撮影された写真は、2016年の彦坂の個展で初めて展示されました。今回対象といたしますポートフォリオは、その展示をもとに構成されたリプリント21点組となっておりますので、個展の翌年、2017年に制作されたものとなります。

この作品につきましては、彦坂による代表的なパフォーマンスの記録であるという点で、資料というよりも写真作品として今回は購入を考えたいと思っているものでございます。

2点目、寄贈になります。No.2としまして、マーク・マンダースの《全ての単語》という作品でございます。

マーク・マンダースの作品は、前回、前々回に引き続けて購入及び寄贈によりまして収集をしておりますもので、リニューアル・オープンのコレクション展におきまして、マンダース本人が来日しまして、展示を構成しております。そこで用いられている作品1点を追加として今回御寄贈のお申し出を受けたものでございます。本作品はマンダース作品の核をなす「言葉、単語」とかかわる作品でございまして、近年のマンダース作品の主調色であるとともに、当館の所蔵作品によるインスタレーションにおいても中心をなす「黄色」がモチーフとなっております。

本作品は同作家の当館の収蔵作品によるインスタレーション《音のないスタジオ》と関わる作品として、収集を提案されたもので、当初はプラスチックシートのスタジオの中に置かれることが想定されておりましたが、展示作業中に独立した作品として改めて手加えられたものでございます。マンダースの制作の中心をなす言葉や単語についての思想をよく伝える作品として合わせて収集し、今後の展示に活用していきたいと考えているものでございます。

以上2点が今回の委員会での対象作品となります。

矢中文化施設担当課長代理：それでは、早速、作品の検分をお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。

(委員離席)

(作品検分)

(委員着席)

矢中文化施設担当課長代理：それでは、作品をごらんになっていただきまして、何か御意見、御質問等ございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは念のため、評価方法の説明をさせていただきます。

評価表のほうに金額を記載していただきまして、御署名をお願いいたします。評価額の最高価格と最低価格を除いた残りの平均値を評価額といたします。金額は税込みで御記載をお願いいたします。では、ボールペンで御記入をお願いいたします。記入が終了されましたら、挙手いただければ係員が取りに伺いますので、よろしくお願いいたします。係員による確認後、御退席いただいて構いません。皆さんの確認完了をもって、委員会終了といたします。

先ほど申し上げましたが、お配りした資料につきましては一式回収となりますので、そのまま机の上に置いたまま、お帰りいただければと思います。

今後とも東京都及び東京都現代美術館について御指導のほど、よろしくお願い申し上げます。

(委員評価書記入)

(事務局評価書確認)

加藤事業企画課長：ありがとうございました。

午後 2 時40分閉会

以上